

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100345		
法人名	社会福祉法人 南郷福祉会		
事業所名	グループホーム「みのりの家」	ユニット名	すずらん棟
所在地	宮城県遠田郡美里町木間塚字原田5番地		
自己評価作成日	平成26年10月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内に病院や健康福祉センターがあり、近隣の幼稚園や小学校、中学校の行事などには、声を掛けていただき、お遊戯会や運動会へ見学に行っております。また、地域の協力のもと、町内の一斉清掃や避難訓練、芋掘りなどにも参加し、地域の方々との交流を深めていると共に、地域の中でのんびり楽しく過ごして頂けるような事業所を目指しております。日々の生活の様子を毎月のお手紙や2ヶ月毎の「みのりだより」として送ったり、写真入りの暑中見舞いのハガキを送り、ご家族様からとても喜ばれております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/">http://www.kaijokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年11月7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者は理事長を囲み、お茶を飲みながら話が弾み、笑顔の絶えない生活を送っている。運営方針に「自然との触れ合い」「地域との交流を図り安心して暮らせるホームづくりを目指します」とある。ホール前には干柿、居間は紅葉で飾られ、職員が季節の草花を摘んで来てはホールに飾っている。町内会の一斉清掃、学校の行事、地区での諸行事へ参加する等、運営方針が実践され、ホームが地域に根付いてきている。協力医も同敷地内にあり毎週定期往診、緊急時の対応も出来ており連携体制が確立され入居者・家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム「みのりの家」)「ユニット名 すずらん棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は地域密着型サービスの目的・理念を踏まえており、毎月のスタッフ会議では「みのりの家の理念」を全員で唱和すると共に、各棟にも掲げておりいつでも共有出来るようになっている。また、職員は常に念頭に入れ実践に繋げている	地域福祉の核として、福祉事業を行う事の理念に基づき、地域住民との交流を大切にしている。入居者については、孤立する事なく毎日の生活を楽んでもらうことを職員一同念頭に実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員と一緒に近隣のスーパーへの買い物・散歩・お祭りへの参加、幼稚園・小中学校への行事参加、町内文化祭への出展・見学へ出掛けている。また、一斉清掃や避難訓練時には地域の方々のご協力を得て参加している	地域の行事である文化祭、消防訓練、ゴミ拾い、小中学校の運動会等に参加する、事業所主催の夏祭り、ファミリー運動会にも地域住民の大勢の参加あり、日常的に地域住民との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の行事に参加することによって、地域の方々に認知症への理解を頂いている。また、運営推進委員会の際には地域代表の方へいつでも当園へ気軽に遊びに来て頂きたいと話しをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者や家族を交えた運営推進委員会を年6回開催しており、日頃の活動内容や入居者様の様子、運営状況を報告し参加者からの意見を真摯に受け止め、サービス向上に活かしている	会議では入退所状況、行事の報告を行っている。行政区長より入居者の誕生会を誕生日に行ってはとの意見があり実行したところ、笑顔のなかった入居者がニコニコしながら挨拶する等ケア向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	美里町の地域包括センターの方々とは日頃から密に連絡を取り合い、事業所内で困難なケースの解決方法や新しく法律が変わる際には新味になりアドバイスを頂きながら、常に協力関係が築けるよう取り組んでおります	行政が運営推進会議に参加しており、サービス状況を把握している。入退居者についての相談、生活保護関係の相談等、アドバイスを受けている。今回外部評価に町職員の同席があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となるようなベット柵や施錠はしておらず、事業所内部研修や法人内の研修に参加し、職員一人一人が理解に努めており、特に言葉による身体拘束に気を配っている	毎月の研修会で「それはダメ・ちょっと待って・声掛けがきつい」等の事例で話し合い、入居者の行動を制限するスピーチロックや環境面(ベッド・居住環境・車椅子等)でも安全の工夫を施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の内部研修等で職員一人一人が虐待についての理解を深め、言葉や態度による虐待についての理解を深め言葉や態度による虐待に気を配り事業所内での虐待を見逃さない様、常に入居者様の皮膚症状等に注意を払っている。また、ご家族からの虐待が感じられた際には地域包括センターへ報告する事としている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人での内部研修時やスタッフ会議時に学習する機会を設けている。尚、現在、財産サポートセンターや成年後見人制度を利用されている入居者様もおります		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書・契約書をご説明し不安や疑問点を尋ねた上で、ご理解して頂き、入所される前にはご家族の方にもよりご本人様にも見学や一時的に皆さんと生活を頂き、納得された上で入所して頂いております。また、やむを得ず解約をしなければならぬ時はその旨を直接ご説明し、不明な点はご理解して頂くまでご説明し、納得して頂いてから解約しております。尚、税率等により利用金額が変更になったり、その他管理者の変更時にはその都度、書面及び電話にてご説明し、ご理解を頂いたうえでご利用頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	棟内にご意見箱を設置しており、入居者様・ご家族様にご利用できる仕組みとなっております。年二回の家族会やケアプラン作成時にご家族様との面会の場を設けている他、面会時にもご意見やご要望を職員に気軽に話して頂ける雰囲気となっております。苦情に関しては、管理者・介護支援専門員に話しをして頂く事としており、全て充分にご家族様及び入居者様の声に耳を傾けながら、スタッフ会議や全体連絡ノートにて全職員に連絡し、質の向上に努めております。また、ご家族様へのアンケートを年一回実施し今後の運営に反映しております。	家族は家族会や面会時に意見・要望を聞いている。新入居者の家族より「認知症」に対する不安の相談を受け家族と話し合った。次の来訪の際、入居者の明るい表情の変化に気が付き、安心して喜んで帰宅した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で職員からの提案等を聞く機会を設け、出た意見は職員全体で話し合いの元、共有し介護力の強化に活かしている。	月1回の会議、連絡ノートで意見・要望を出し合っている。食中毒防止のため食器乾燥器、冷凍冷蔵庫、浴室の事故防止のため滑り止めマット、安全椅子等を設置し環境整備し改善に役立った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士等の資格を習得した職員には資格手当を支給しており、賞与や昇給にも十分に配慮しやりがいのある職場であるよう努めている。また、各国家資格を受験し取得すると共に研修等に参加するよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員全員の力量を把握すると共に、それを補う為や、より向上する為の各、研修会に参加する機会を与える事にて、質の良いサービスが提供できるよう取り組んでおります		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来るだけ多くの外部研修へ参加させる事にて同業者との交流の場を確保すると共に、その後のネットワーク作りにも努めている。また、今年より美里町のグループホームの会議が年二回開催される事となり、今まで以上の横の繋がりに期待できると思っております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者ご本人及びご家族と十分な話し合いの場を設け、一人一人の生活歴を理解し、本人にとっての大切な思い出や経験を受け止め、困っている事・不安に思っている事・要望等に傾聴し想いを受け止める事にて安心して生活が送れるよう、常に話しやすい雰囲気作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の実態調査や契約時に困っている事・不安な事・ご要望等に耳を傾け、それには、これからどのような支援を行って行くかを詳しくご説明する事にて信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の残存能力が「どこまで出来て」「どこが出来ないのか」ご本人が支障となっている所を見極め、どのような支援を行えば支障となっている所が補えるかをケアプランに取り上げる事にて、自立支援を念頭に置きその人らしい生活が送れるよう、努めております		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ等、その方ができる事を職員と一緒にしたり、簡単な調理等をお手伝い頂いたり、配膳・下膳をして頂く事にて、暮らしを共にする同士の関係作りを行っている。また、お手伝いして頂いた後には感謝の言葉を述べております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へは、毎月のお便りと二カ月に一回発行している「みのりだより」にてご利用様の日常生活面をご報告させて頂いております。また、ご家族様よりご相談があればその都度対応させて頂き、ご家族様より電話やお手紙が届いた際には、ご本人に代わり話しをして頂いたり、手紙をお見せしております。ほとんどのご家族様は月一回程度は面会に来られており、その際は居室や談話室にてお話しをさせて頂いております		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで親しくされていた方が面会に来られたり、行事の際にはご招待したり、ご家族や職員と一緒に買い物へ出掛ける事にて馴染みの人や場所との関係が途切れない様支援している	同じ敷地内にある特養ホームに居る兄弟と行き来したり、家族とスーパーに出掛け、親類が経営する薬局に行く等馴染みの関係維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格を把握した上で、人間関係が保たれる様、食卓の席の配置を考慮したり、孤立しないよう、皆さんと一緒に行える行事やレクリエーションを行う事にて皆さんとの交流が図れる様努めております		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず退所の対象となった時には、ご家族様へご説明すると共に、これからの事についての不安等があればご相談に応じております。また、退所時には必要に応じてアセスメントや家族構成等をご家族の了承を得た上で次に入所される所へお渡しし安心して生活が送れる様支援しております	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを作成する前の段階でアセスメントを行う際に「どのような生活を送りたいのか」「ご本人の意向」をお聞きしそれをケアプランに掲げるように努めております。また、ご本人が意思疎通が困難な時には介護支援専門員が代弁者となり、ご本人の意向が聞き出せる様に努め、ケアプランに取り上げております	その人の笑顔見たさが職員一人ひとりの望みであり「楽しみたい・外出したい・健康でありたい」が入居者の思いや・意向である。ケアプランに盛り込み、その人の思い、意向に沿ったケアになるよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査時に生活歴やなじみの暮らし方・生活環境等をご本人またはご家族様よりお聞きすると共に、これまで利用されていた事業所から情報収集を行っております	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方や有する力等は毎日の記録に留めておき、心身状態については毎日二回のバイタル測定を行い、記録すると共に、全身の異常等きめ細かに観察し記録する事にて職員間で報告しながらご本人の現状の把握に努めております	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントよりご本人が支障となっている所についてのご本人及びご家族様の意向をお聞きした上でケアの方向性に繋げ、自立支援に基づいたケアプラン作成を行っております。また、ご本人の心身状態の変化によりその都度モニタリングを行い、職員間で意見交換し現状に合った介護計画の見直しを行っております	3か月に一度モニタリングを行いケアプランを作成している。必要に応じ家族を交えて、医師の意見を入れケアプランの見直しを行っている。血糖値が上昇し家族に相談し受診し、翌日ケアプランの見直しを行った。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき・工夫は個別に記録し、日々のケアの実践は「ケアプランチェック表」に記入し月別にその項目の結果を記入する事にて、職員間で情報を共有し異常がなければ3か月に1度、異常があればその都度ケアカンファレンスを行い、モニタリングしその結果により再びアセスメントしケアプランの見直しに活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の心身状況の変化により新たにニーズが発生した際には、その都度、ケアカンファレンスを行い、再アセスメントしケアプランを作成しそれに基づいて支援を行っております	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園から小中学校まで施設の近所にある為、運動会時等は招待をもらい参加している。また、近所のスーパーや地場産の野菜購入時に出掛け楽しませております。また、安全に生活が送れる様、法人全体での避難訓練や地域の皆様のご協力の元、町の避難訓練に参加する事にて、安全で豊かな生活が送れる様支援しております		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人及びご家族とご相談の上納得して頂いた上でご希望の病院を受診しております。その際には看護師や介護支援専門員も同行し現状をご説明しながら適切に診断を受けられており、かかりつけ医と事業所との連携も図れております	入居者全員が協力医の訪問診療を受けている。歯科は職員が同行し受診している。必要に応じて職員同行の上専門医で受診し、結果は家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所看護師が週3回勤務しており、入居者の体調の変化や状態を報告・相談し指示を受け必要時、受診を行っております。看護師も定期受診時や臨時受診時に同行しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、情報提供書を作成し病院へ情報を提供している。時々、看護師及び職員が病院へ行き状態確認と医師又は看護師より情報を得ながら早期に退院が出来る様努めております。そうした場合に備えて、定期受診時に病院関係者との信頼関係作りにも努めております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については入所時に詳しくお話しさせて頂きご了承頂いた上で入所して頂いております。また、終末期の在り方については入所時に「出来る事と、出来ない事」をお話しさせて頂き、意思同意書に記載して頂き、その方針は共有化し地域の関係機関にもお話しさせて頂いております	入居時「医療連携体制及びターミナル(看取りに関する)意思確認書」でホームとして対応しうる具体的な内容を話し合っている。「医療機関が入院と判断した場合、ご家族が希望されても当ホームで介護することは出来かねる」と入居時に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については、法人での内部研修及びスタッフ会議にて学習会を開催し、応急手当や初期対応の仕方・AEDの使い方なども定期的講習を行っております		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを基に、昼夜を想定して消防職員や地域の消防団及び協力病院・法人からの協力を得て、避難訓練を行っております。また、災害時には農協や地域住民にも協力が得られるよう協力体制を整えたと共に、月一回電話での連絡を行う事にて、いつ災害が起きても対応できるシステムが構築しております	夜間想定を含み年2回避難訓練を実施し、見守り役として区長、消防団の参加協力を得ている。毎月、2ユニット交互に出火を想定し、避難訓練を実施している。非常用食品、備品も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議にて接遇に関する内部研修を実施しており、入居者一人一人の人格を尊重し、その人の返答能力に応じた声掛けをする等、職員全体で共通の意識を持ち統一した支援を行っている	入居者の呼称は、家族と相談し馴染んだ呼び方をしている。研修会では「ちょっと待って」等不適切発言事例で話し合い、尊厳とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない表情や行動からその方が「何を訴えたいのか」を見極めながら職員の方から問いかけを行うなどしてご本人の意見が表現出来る様工夫しております。また、自己決定に関しては、入浴前に入居者の方に入浴後に着る服を選んで頂いたり、二者選択できるような時には出来るだけご本人に選んで頂いております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で職員のペースを押し付けることなく、入居者が自分のペースでゆったりと生活できるよう支援している。また、レクリエーションにおいても入居者様の意見を聞き希望に沿ったレクリエーションを行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔な衣類を準備し自分の好きな衣類を選んで頂いている。整容においては、出来る事はご本人に行って頂き、出来ない所を支援させて頂いております		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用したり、昔の季節料理を提供するなど工夫し、時には食べたい物を聞きとりし献立に取り入れている。また、皮むきや盛り付け及びエプロンを付けて職員と一緒に配膳や下膳のお手伝いをして頂いております	管理栄養士がメニューの作成をしているが、入居者の希望で「ずんだ・はっと」等に変更する場合もある。入居者全員で農家レストラン「野の風」に出掛け豪華な食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人状態に応じた形態で提供する事にて安全に食事をして頂いております。また、栄養に関しては、併設の管理栄養士の立てたメニューに添って提供する事にて栄養バランスは保たれており、摂取量については毎食記録し摂取量が少ない時は捕食で補っております。水分補給にも努めており、各自摂取した物を日々分かるよう記入しております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各自のコップにてうがいをして頂くと共に、起床時及び就寝時にはその方の能力に応じてうがい又は歯磨きをして頂いております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々記録している排泄表よりその方の排泄パターンを読み取ったり、仕草や行動によりサインを察知し何気なくお声掛けをトイレへ誘導しております。また、残存機能を生かし出来る所は一人で行って頂き出来ない所だけお手伝いする事にてトイレでの排泄に努めると共にオムツからリハビリパンツ・リハビリパンツから布パンツへの移行にも努めております	「オラホのラジオ体操」を継続することにより、スムーズに排泄出来るようになる。その人のパターンを確認しながら、誘導や声掛けをしている。失敗しても耳元で声掛けする等、羞恥心へ配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日を通じて十分な水分補給に努めている。またレクリエーション時にはラジオ体操や体を動かす活動を取り入れている。食事に関しては、食物繊維の多い食材を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴も可能であり、ご本人より「お風呂に入りたい」との声が聞かれた際には、可能な限り入浴して頂いております。お声掛けはその方に合ったタイミングを見計らい行うと共に、入浴拒否が見られる方には歌を唄って行かれるなど楽しい所だ認識して頂き入浴して頂く事にて楽しく入浴して頂けるよう努めております。それでも、強い拒否時には無理強いせず翌日に再度声掛けを行い入浴して頂いております	入居者の希望で入浴は何時でも可能である。拒否の場合には、好きな歌手の歌を歌いながら入浴を促している。恐怖心を無くすため浴室に滑り止めマットや安全椅子を備え、入浴出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣を大切にしその方のペースにて過ごされており、好きな時に自由に居室に入る事が出来、居室にて休息される方もおります。また、夜間快く休んで頂けるよう日中、散歩に行かれたり体を動かす活動を多く取り入れる事にて夜間、自然な眠りが出来る様支援しております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人様のお薬手帳を準備し処方箋を閉じておき、変更になった時は必ず記録に残し、申し送ると共に各自、処方箋に目を通し目的及び副作用を確認しております。また、服薬支援は必ず飲み終えたのを確認し体調に変化が見られた際には看護師又は医師へ報告しております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力に応じ出来る事はお手伝いして頂く事にて張り合いのある生活を送って頂いております。また、ご家族様がご本人の好きな物を持って来て下さった時には召しあがって頂いております。ドライブや買い物・散歩・ボランティア活動・行事等へ参加する事にて気分転換を図られております		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや食材の買い物等にお誘いし職員と一緒に出かけたり、野外で行われるイベントへの参加・入居者全員で外出に出掛けたりしております。また、ご本人の希望に沿い地域行事に参加されたり、ご家族の協力の元、外出や外泊も楽しまれております	職員同行で花野果市場に買物に行き、町内外のドライブを楽しみ、中学校の駅伝大会の応援、農協祭等の行事に出掛ける。家族と松島のホテルに行く等希望に沿った支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自、お預かり金として管理させて頂いておりますが、買い物へ行かれたり、併設施設でのスナックかかし等での支払時には能力に応じてご本人にもお支払いさせて頂いております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話の時にはご本人へ代わりお話しをして頂いたり、ご希望があればご家族様へ電話させて頂いております。また、ご家族様へ残暑ハガキを書きお送りしております。ご家族様より手紙が来た際にはご本人へお渡しすると共に字の読めない方には代読させて頂いております		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の天候や時間の経緯が分かるように自然光を取り入れる事にて入居者様が落ち着いて暮らせるよう配慮している。常に温度・湿度・換気に気を配ることにて快適に過ごして頂けるよう努めております。また、玄関や廊下及び食堂等には季節感のある装飾品や草花を飾り心地よく過ごして頂けるよう努めております	玄関・廊下には行事の写真、絵や紅葉で飾り季節を感じさせている。リビングは天井が高く、入居者が伸び伸びと寛げる感じの居間で、入居者は自分の好みの過ごし方をしている。夏は冷房、冬は床暖で適温の管理がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・娯楽室のスペースを設けており、一人で過ごされたり気の合った方同士で過ごされたりと思い思いに過ごせる居場所作りに努めております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでの生活が引き続き送れるようにとの事にて、ご希望があれば使い慣れた筆筒や位牌等をお持ちになられたり昔の写真を飾ったり、馴染みの小物を置く事にて違和感なく心地よく生活されております	居室にベッドが用意され、押し入れ、洗面台が設置されている。馴染みの生活用品、位牌等を持ち込み、仏壇には職員が毎日お茶と水を供え、自宅での生活と変わらない安心した生活を送れる様な支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室には手すりがあり、トイレは洋式となっており残存機能を生かし出来る所は安全に行き渡らせるよう環境づくりに心がけております		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100345		
法人名	社会福祉法人 南郷福祉会		
事業所名	グループホーム「みのりの家」	ユニット名	すみれ棟
所在地	宮城県遠田郡美里町木間塚字原田5番地		
自己評価作成日	平成26年10月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内に病院や健康福祉センターがあり、近隣の幼稚園や小学校、中学校の行事などには、声を掛けていただき、お遊戯会や運動会へ見学に行っております。また、地域の協力のもと、町内の一斉清掃や避難訓練、芋掘りなどにも参加し、地域の方々との交流を深めていると共に、地域の中でのんびり楽しく過ごして頂けるような事業所を目指しております。日々の生活の様子を毎月のお手紙や2ヶ月毎の「みのりだより」として送ったり、写真入りの暑中見舞いのハガキを送り、ご家族様からとても喜ばれております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/">http://www.kaijokensaku.jp/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者は理事長を囲み、お茶を飲みながら話が弾み、笑顔の絶えない生活を送っている。運営方針に「自然との触れ合い」「地域との交流を図り安心して暮らせるホームづくりを目指します」とある。ホール前には干柿、居間は紅葉で飾られ、職員が季節の草花を摘んで来てはホールに飾っている。町内会の一斉清掃、学校の行事、地区での諸行事へ参加する等、運営方針が実践され、ホームが地域に根付いてきている。協力医も同敷地内にあり毎週定期往診、緊急時の対応も出来ており連携体制が確立され入居者・家族の安心につながっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年11月7日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム「みのりの家」)「ユニット名 すみれ棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は地域密着型サービスの目的・理念を踏まえており、毎月のスタッフ会議では「みのりの家の理念」を全員で唱和すると共に、各棟にも掲げておりいつでも共有出来るようになっている。また、職員は常に念頭に入れ実践に繋げている	地域福祉の核として、福祉事業を行う事の理念に基づき、地域住民との交流を大切にしている。入居者については、孤立する事なく毎日の生活を楽んでもらうことを職員一同念頭に実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員と一緒に近隣のスーパーへの買い物・散歩・お祭りへの参加、幼稚園・小中学校への行事参加、町内文化祭への出展・見学へ出掛けている。また、一斉清掃や避難訓練時には地域の方々のご協力を得て参加している	地域の行事である文化祭、消防訓練、ゴミ拾い、小中学校の運動会等に参加する、事業所主催の夏祭り、ファミリー運動会にも地域住民の大勢の参加あり、日常的に地域住民との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の行事に参加することによって、地域の方々に認知症への理解を頂いている。また、運営推進委員会の際には地域代表の方へいつでも当園へ気軽に遊びに来て頂きたいと話しをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者や家族を交えた運営推進委員会を年6回開催しており、日頃の活動内容や入居者様の様子、運営状況を報告し参加者からの意見を真摯に受け止め、サービス向上に活かしている	会議では入退所状況、行事の報告を行っている。行政区長より入居者の誕生会を誕生日に行ってはとの意見があり実行したところ、笑顔のなかった入居者がニコニコしながら挨拶する等ケア向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	美里町の地域包括センターの方々とは日頃から密に連絡を取り合い、事業所内で困難なケースの解決方法や新しく法律が変わる際には新味になりアドバイスを頂きながら、常に協力関係が築けるよう取り組んでおります	行政が運営推進会議に参加しており、サービス状況を把握している。入退居者についての相談、生活保護関係の相談等、アドバイスを受けている。今回外部評価に町職員の同席があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となるようなベット柵や施錠はしておらず、事業所内部研修や法人内の研修に参加し、職員一人一人が理解に努めており、特に言葉による身体拘束に気を配っている	毎月の研修会で「それはダメ・ちょっと待って・声掛けがきつい」等の事例で話し合い、入居者の行動を制限するスピーチロックや環境面(ベッド・居住環境・車椅子等)でも安全の工夫を施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の内部研修等で職員一人一人が虐待についての理解を深め、言葉や態度による虐待についての理解を深め言葉や態度による虐待に気を配り事業所内での虐待を見逃さない様、常に入居者様の皮膚症状等に注意を払っている。また、ご家族からの虐待が感じられた際には地域包括センターへ報告する事としている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人での内部研修時やスタッフ会議時に学習する機会を設けている。尚、現在、財産サポートセンターや成年後見人制度を利用されている入居者様もおります		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書・契約書をご説明し不安や疑問点を尋ねた上で、ご理解して頂き、入所される前にはご家族の方にもよりご本人様にも見学や一時的に皆さんと生活を頂き、納得された上で入所して頂いております。また、やむを得ず解約をしなければならぬ時はその旨を直接ご説明し、不明な点はご理解して頂くまでご説明し、納得して頂いてから解約しております。尚、税率等により利用金額が変更になったり、その他管理者の変更時にはその都度、書面及び電話にてご説明し、ご理解を頂いたうえでご利用頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	棟内にご意見箱を設置しており、入居者様・ご家族様にご利用できる仕組みとなっております。年二回の家族会やケアプラン作成時にご家族様との面会の場を設けている他、面会時にもご意見やご要望を職員に気軽に話して頂ける雰囲気となっております。苦情に関しては、管理者・介護支援専門員に話しをして頂く事としており、全て充分にご家族様及び入居者様の声に耳を傾けながら、スタッフ会議や全体連絡ノートにて全職員に連絡し、質の向上に努めております。また、ご家族様へのアンケートを年一回実施し今後の運営に反映しております。	家族は家族会や面会時に意見・要望を聞いている。新入居者の家族より「認知症」に対しての不安の相談を受け家族と話し合った。次の来訪の際、入居者の明るい表情の変化に気が付き、安心して喜んで帰宅した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で職員からの提案等を聞く機会を設け、出た意見は職員全体で話し合いの元、共有し介護力の強化に活かしている。	月1回の会議、連絡ノートで意見・要望を出し合っている。食中毒防止のため食器乾燥器、冷凍冷蔵庫、浴室の事故防止のため滑り止めマット、安全椅子等を設置し環境整備し改善に役立った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士等の資格を習得した職員には資格手当を支給しており、賞与や昇給にも十分に配慮しやりがいのある職場であるよう努めている。また、各国家資格を受験し取得すると共に研修等に参加するよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員全員の力量を把握すると共に、それを補う為や、より向上する為の各、研修会に参加する機会を与える事にて、質の良いサービスが提供できるよう取り組んでおります		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来るだけ多くの外部研修へ参加させる事にて同業者との交流の場を確保すると共に、その後のネットワーク作りにも努めている。また、今年より美里町のグループホームの会議が年二回開催される事となり、今まで以上の横の繋がりに期待できると思っております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者ご本人及びご家族と十分な話し合いの場を設け、一人一人の生活歴を理解し、本人にとっての大切な思い出や経験を受け止め、困っている事・不安に思っている事・要望等に傾聴し想いを受け止める事にて安心して生活が送れるよう、常に話しやすい雰囲気作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の実態調査や契約時に困っている事・不安な事・ご要望等に耳を傾け、それには、これからどのような支援を行って行くかを詳しくご説明する事にて信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の残存能力が「どこまで出来て」「どこが出来ないのか」ご本人が支障となっている所を見極め、どのような支援を行えば支障となっている所が補えるかをケアプランに取り上げる事にて、自立支援を念頭に置きその人らしい生活が送れるよう、努めております		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ等、その方ができる事を職員と一緒にしたり、簡単な調理等をお手伝い頂いたり、配膳・下膳をして頂く事にて、暮らしを共にする同士の関係作りを行っている。また、お手伝いして頂いた後には感謝の言葉を述べております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へは、毎月のお便りと二カ月に一回発行している「みのりだより」にてご利用様の日常生活面をご報告させて頂いております。また、ご家族様よりご相談があればその都度対応させて頂き、ご家族様より電話やお手紙が届いた際には、ご本人に代わり話しをして頂いたり、手紙をお見せしております。ほとんどのご家族様は月一回程度は面会に来られており、その際は居室や談話室にてお話しをさせて頂いております		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで親しくされていた方が面会に来られたり、行事の際にはご招待したり、ご家族や職員と一緒に買い物へ出掛ける事にて馴染みの人や場所との関係が途切れない様支援している	同じ敷地内にある特養ホームに居る兄弟と行き来したり、家族とスーパーに出掛け、親類が経営する薬局に行く等馴染みの関係維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格を把握した上で、人間関係が保たれる様、食卓の席の配置を考慮したり、孤立しないよう、皆さんと一緒に行える行事やレクリエーションを行う事にて皆さんとの交流が図れる様努めております		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず退所の対象となった時には、ご家族様へご説明すると共に、これからの事についての不安等があればご相談に応じております。また、退所時には必要に応じてアセスメントや家族構成等をご家族の了承を得た上で次に入所される所へお渡しし安心して生活が送れる様支援しております	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを作成する前の段階でアセスメントを行う際に「どのような生活を送りたいのか」「ご本人の意向」をお聞きしそれをケアプランに掲げるように努めております。また、ご本人が意思疎通が困難な時には介護支援専門員が代弁者となり、ご本人の意向が聞き出せる様に努め、ケアプランに取り上げております	その人の笑顔見たさが職員一人ひとりの望みであり「楽しみたい・外出したい・健康でありたい」が入居者の思いや・意向である。ケアプランに盛り込み、その人の思い、意向に沿ったケアになるよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査時に生活歴やなじみの暮らし方・生活環境等をご本人またはご家族様よりお聞きすると共に、これまで利用されていた事業所から情報収集を行っております	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方や有する力等は毎日の記録に留めておき、心身状態については毎日二回のバイタル測定を行い、記録すると共に、全身の異常等きめ細かに観察し記録する事にて職員間で報告しながらご本人の現状の把握に努めております	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントよりご本人が支障となっている所についてのご本人及びご家族様の意向をお聞きした上でケアの方向性に繋げ、自立支援に基づいたケアプラン作成を行っております。また、ご本人の心身状態の変化によりその都度モニタリングを行い、職員間で意見交換し現状に合った介護計画の見直しを行っております	3か月に一度モニタリングを行いケアプランを作成している。必要に応じ家族を交えて、医師の意見を入れケアプランの見直しを行っている。血糖値が上昇し家族に相談し受診し、翌日ケアプランの見直しを行った。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき・工夫は個別に記録し、日々のケアの実践は「ケアプランチェック表」に記入し月別にその項目の結果を記入する事にて、職員間で情報を共有し異常がなければ3か月に1度、異常があればその都度ケアカンファレンスを行い、モニタリングしその結果により再びアセスメントしケアプランの見直しに活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の心身状況の変化により新たにニーズが発生した際には、その都度、ケアカンファレンスを行い、再アセスメントしケアプランを作成しそれに基づいて支援を行っております	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園から小中学校まで施設の近所にある為、運動会時等は招待をもらい参加している。また、近所のスーパーや地場産の野菜購入時に出掛け楽しませております。また、安全に生活が送れる様、法人全体での避難訓練や地域の皆様のご協力の元、町の避難訓練に参加する事にて、安全で豊かな生活が送れる様支援しております		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人及びご家族とご相談の上納得して頂いた上でご希望の病院を受診しております。その際には看護師や介護支援専門員も同行し現状をご説明しながら適切に診断を受けられており、かかりつけ医と事業所との連携も図れております	入居者全員が協力医の訪問診療を受けている。歯科は職員が同行し受診している。必要に応じて職員同行の上専門医で受診し、結果は家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所看護師が週3回勤務しており、入居者の体調の変化や状態を報告・相談し指示を受け必要時、受診を行っております。看護師も定期受診時や臨時受診時に同行しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、情報提供書を作成し病院へ情報を提供している。時々、看護師及び職員が病院へ行き状態確認と医師又は看護師より情報を得ながら早期に退院が出来る様努めております。そうした場合に備えて、定期受診時に病院関係者との信頼関係作りにも努めております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については入所時に詳しくお話しさせて頂きご了承頂いた上で入所して頂いております。また、終末期の在り方については入所時に「出来る事と、出来ない事」をお話しさせて頂き、意思同意書に記載して頂き、その方針は共有化し地域の関係機関にもお話しさせて頂いております	入居時「医療連携体制及びターミナル(看取りに関する)意思確認書」でホームとして対応しうる具体的な内容を話し合っている。「医療機関が入院と判断した場合、ご家族が希望されても当ホームで介護することは出来かねる」と入居時に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については、法人での内部研修及びスタッフ会議にて学習会を開催し、応急手当や初期対応の仕方・AEDの使い方なども定期的講習を行っております		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを基に、昼夜を想定して消防職員や地域の消防団及び協力病院・法人からの協力を得て、避難訓練を行っております。また、災害時には農協や地域住民にも協力が得られるよう協力体制を整えたと共に、月一回電話での連絡を行う事にて、いつ災害が起きても対応できるシステムが構築しております	夜間想定を含み年2回避難訓練を実施し、見守り役として区長、消防団の参加協力を得ている。毎月、2ユニット交互に出火を想定し、避難訓練を実施している。非常用食品、備品も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議にて接遇に関する内部研修を実施しており、入居者一人一人の人格を尊重し、その人の返答能力に応じた声掛けをする等、職員全体で共通の意識を持ち統一した支援を行っている	入居者の呼称は、家族と相談し馴染んだ呼び方をしている。研修会では「ちょっと待って」等不適切発言事例で話し合い、尊厳とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない表情や行動からその方が「何を訴えたいのか」を見極めながら職員の方から問いかけを行うなどしてご本人の意見が表現出来る様工夫しております。また、自己決定に関しては、入浴前に入居者の方に入浴後に着る服を選んで頂いたり、二者選択できるような時には出来るだけご本人に選んで頂いております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で職員のペースを押し付けることなく、入居者が自分のペースでゆったりと生活できるよう支援している。また、レクリエーションにおいても入居者様の意見を聞き希望に沿ったレクリエーションを行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔な衣類を準備し自分の好きな衣類を選んで頂いている。整容においては、出来る事はご本人に行って頂き、出来ない所を支援させて頂いております		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用したり、昔の季節料理を提供するなど工夫し、時には食べたい物を聞きとりし献立に取り入れている。また、皮むきや盛り付け及びエプロンを付けて職員と一緒に配膳や下膳のお手伝いをして頂いております	管理栄養士がメニューの作成をしているが、入居者の希望で「ずんだ・はっと」等に変更する場合もある。入居者全員で農家レストラン「野の風」に出掛け豪華な食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人状態に応じた形態で提供する事にて安全に食事をして頂いております。また、栄養に関しては、併設の管理栄養士の立てたメニューに添って提供する事にて栄養バランスは保たれており、摂取量については毎食記録し摂取量が少ない時は捕食で補っております。水分補給にも努めており、各自摂取した物を日々分かるよう記入しております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各自のコップにてうがいをして頂くと共に、起床時及び就寝時にはその方の能力に応じてうがい又は歯磨きをして頂いております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々記録している排泄表よりその方の排泄パターンを読み取ったり、仕草や行動によりサインを察知し何気なくお声掛けをトイレへ誘導しております。また、残存機能を生かし出来る所は一人で行って頂き出来ない所だけお手伝いする事にてトイレでの排泄に努めると共にオムツからリハビリパンツ・リハビリパンツから布パンツへの移行にも努めております	「オラホのラジオ体操」を継続することにより、スムーズに排泄出来るようになる。その人のパターンを確認しながら、誘導や声掛けをしている。失敗しても耳元で声掛けする等、羞恥心へ配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日を通じて十分な水分補給に努めている。またレクリエーション時にはラジオ体操や体を動かす活動を取り入れている。食事に関しては、食物繊維の多い食材を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴も可能であり、ご本人より「お風呂に入りたい」との声が聞かれた際には、可能な限り入浴して頂いております。お声掛けはその方に合ったタイミングを見計らい行うと共に、入浴拒否が見られる方には歌を唄って行かれるなど楽しい所だ認識して頂き入浴して頂く事にて楽しく入浴して頂けるよう努めております。それでも、強い拒否時には無理強いせず翌日に再度声掛けを行い入浴して頂いております	入居者の希望で入浴は何時でも可能である。拒否の場合には、好きな歌手の歌を歌いながら入浴を促している。恐怖心を無くすため浴室に滑り止めマットや安全椅子を備え、入浴出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣を大切にしその方のペースにて過ごされており、好きな時に自由に居室に入る事が出来、居室にて休息される方もおります。また、夜間快く休んで頂けるよう日中、散歩に行かれたり体を動かす活動を多く取り入れる事にて夜間、自然な眠りが出来る様支援しております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人様のお薬手帳を準備し処方箋を閉じておき、変更になった時は必ず記録に残し、申し送ると共に各自、処方箋に目を通し目的及び副作用を確認しております。また、服薬支援は必ず飲み終えたのを確認し体調に変化が見られた際には看護師又は医師へ報告しております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力に応じ出来る事はお手伝いして頂く事にて張り合いのある生活を送って頂いております。また、ご家族様がご本人の好きな物を持って来て下さった時には召しあがって頂いております。ドライブや買い物・散歩・ボランティア活動・行事等へ参加する事にて気分転換を図られております		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや食材の買い物等にお誘いし職員と一緒に出かけたり、野外で行われるイベントへの参加・入居者全員で外出に出掛けたりしております。また、ご本人の希望に沿い地域行事に参加されたり、ご家族の協力の元、外出や外泊も楽しまれております	職員同行で花野果市場に買物に行き、町内外のドライブを楽しみ、中学校の駅伝大会の応援、農協祭等の行事に出掛ける。家族と松島のホテルに行く等希望に沿った支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自、お預かり金として管理させて頂いておりますが、買い物へ行かれたり、併設施設でのスナックかかし等での支払時には能力に応じてご本人にもお支払いさせて頂いております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話の時にはご本人へ代わりお話しをして頂いたり、ご希望があればご家族様へ電話させて頂いております。また、ご家族様へ残暑ハガキを書きお送りしております。ご家族様より手紙が来た際にはご本人へお渡しすると共に字の読めない方には代読させて頂いております		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の天候や時間の経緯が分かるように自然光を取り入れる事にて入居者様が落ち着いて暮らせるよう配慮している。常に温度・湿度・換気に気を配ることにて快適に過ごして頂けるよう努めております。また、玄関や廊下及び食堂等には季節感のある装飾品や草花を飾り心地よく過ごして頂けるよう努めております	玄関・廊下には行事の写真、絵や紅葉で飾り季節を感じさせている。リビングは天井が高く、入居者が伸び伸びと寛げる感じの居間で、入居者は自分の好みの過ごし方をしている。夏は冷房、冬は床暖で適温の管理がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・娯楽室のスペースを設けており、一人で過ごされたり気の合った方同士で過ごされたりと思い思いに過ごせる居場所作りに努めております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでの生活が引き続き送れるようにとの事にて、ご希望があれば使い慣れた筆筒や位牌等をお持ちになられたり昔の写真を飾ったり、馴染みの小物を置く事にて違和感なく心地よく生活されております	居室にベッドが用意され、押し入れ、洗面台が設置されている。馴染みの生活用品、位牌等を持ち込み、仏壇には職員が毎日お茶と水を供え、自宅での生活と変わらない安心した生活を送れる様な支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室には手すりがあり、トイレは洋式となっており残存機能を生かし出来る所は安全に行き渡らせるよう環境づくりに心がけております		